

研究分野	資源評価	機関・部名	水産総合研究所・資源管理部
研究課題名	東通原子力発電所温排水影響調査(海洋生物調査：イカナゴ)		
予算区分	受託研究(青森県)		
研究実施期間	H15～H27		
担当	高橋 進吾		
協力・分担関係	なし		

〈目的〉

東北電力東通原子力発電所の温排水が、周辺海域の主要魚種であるイカナゴに与える影響を把握する。

〈試験研究方法〉

- (1) 漁獲動向調査：白糠、泊両漁協の漁獲量を調べた。
- (2) 標本船調査：平成 21 年 4 月～6 月に白糠、泊両漁協の標本船 8 隻により漁場を 10 区分し、漁場形成状況を調査した。
- (3) 稚仔魚分布調査：平成 21 年 2 月、3 月、5 月に各月 1 回、白糠・泊地区周辺海域の 10 地点において、試験船開運丸によるボンゴネット往復傾斜曳を行い、稚仔の分布密度を調査した。

〈結果の概要・要約〉

- (1) 漁獲動向調査：平成 21 年の両漁協の漁獲量は 294 トンで昭和 56 年以降の平均漁獲量(248 トン)の 118.7%であった(図 1)。
- (2) 標本船調査：標本船調査の結果を基に、海域別の漁獲量を推定して示した(図 2)。平成 21 年はタカ磯海域での漁獲が最も多かった。
- (3) 稚仔魚分布調査：イカナゴ稚仔魚の分布密度は平均で 7.2 個体/100 m³で、近年では平成 16 年の 7.4 個体/100 m³と同等の値であった(図 3)。

〈主要成果の具体的なデータ〉

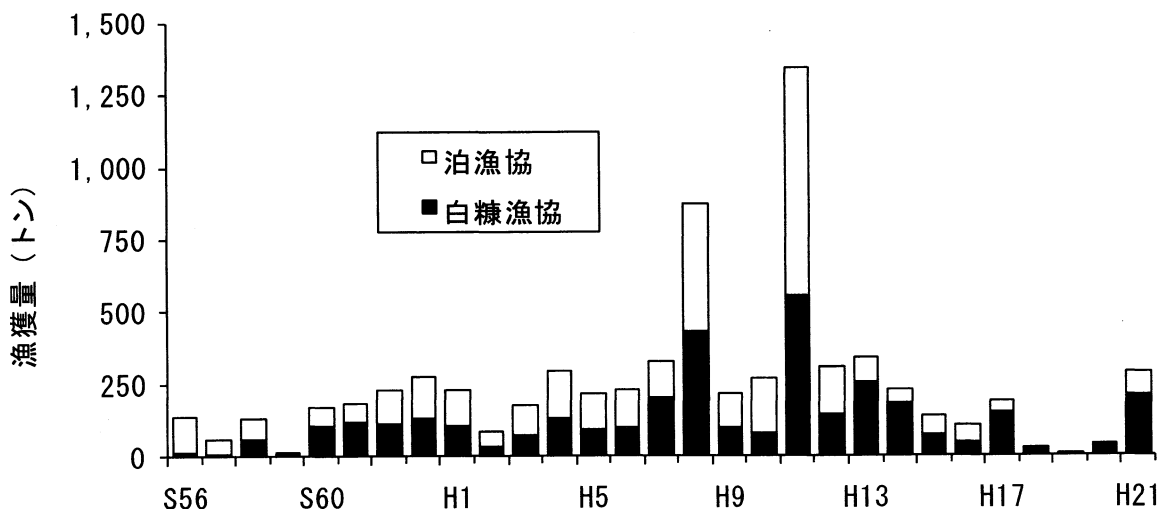


図 1 白糠及び泊漁協のイカナゴ漁獲量の推移

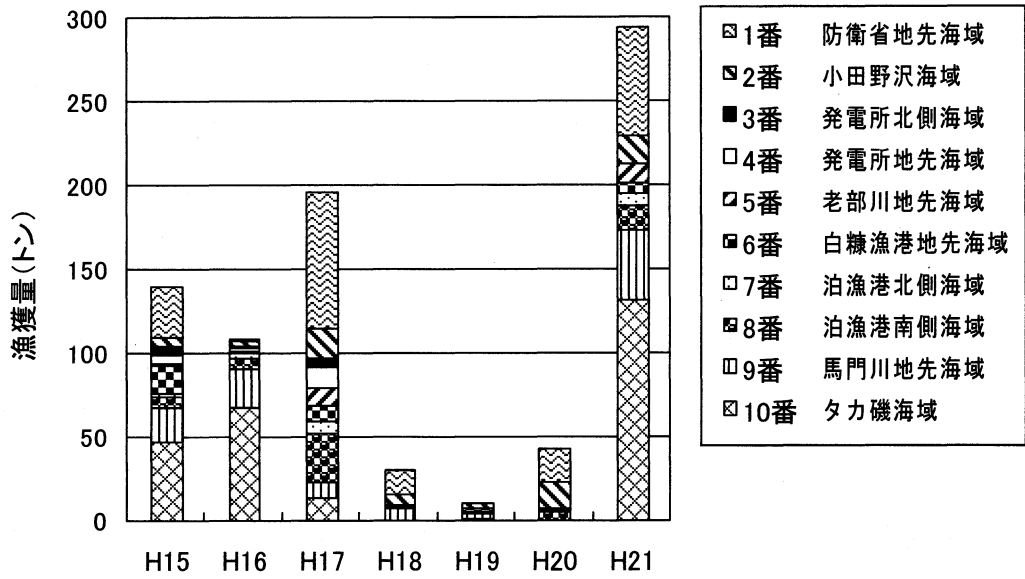


図2 イカナゴ漁場別推定漁獲量

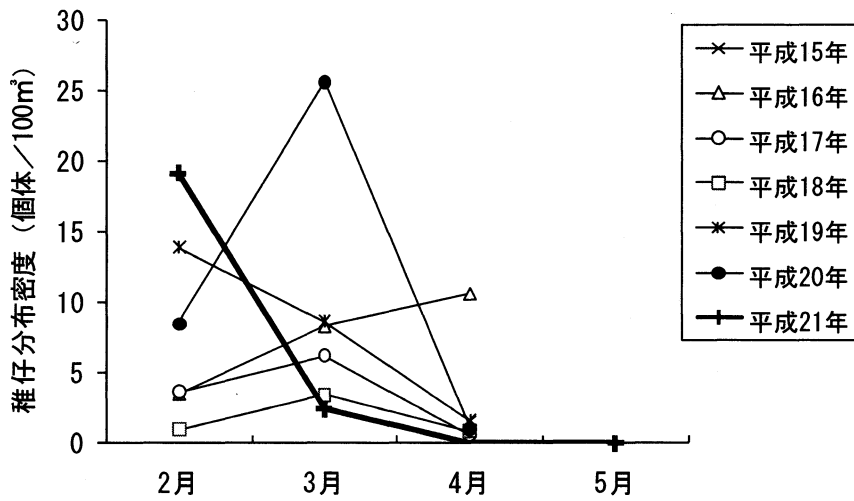


図3 稚子魚分布密度

〈今後の問題点〉

なし

〈次年度の具体的計画〉

今年度と同じ

〈結果の発表・活用状況等〉

- ・平成21年度第3回青森県原子力施設環境放射線等監視評価会議評価委員会・監視委員会で報告
- ・平成21年度東通原子力発電所温排水影響調査結果報告会（第1四半期）で報告